

西牟婁地域における「YN26」導入推進の取り組み

西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課
普及グループ 竹中 正好

1. はじめに

西牟婁振興局農業水産振興課では、平成27年度からの3か年間、「新品種導入による果樹産地の活性化」を普及重点課題として取り組んでいる。その中で、県果樹試験場で育成された温州ミカン新品種「YN26」の導入による農家所得の向上を図るため、JA紀南など関係機関と連携し、現地実証園の設置や研修会の開催等による導入推進に向けた取り組みを行ったので紹介する。

2. 実証園の概要

実証園は、平成25年、上富田町岡の傾斜畑に西牟婁農業プロジェクト協議会（JA紀南、管内市町、振興局で組織）が主体となり、西牟婁地域における品種特性を把握するとともに栽培技術を確立し、産地への普及を図る目的で設置した（写真1）。また、生産者の皆さんと共に学べる場として現地研修会等に活用している。規模は4a（41本）で、平成29年度の樹齢は6年生（一部5年生）となっている。



写真1. 実証園の様子

3. 品種の特性把握

西牟婁地域での品種特性を把握するため、実証園の4年生樹から6年生樹にかけて、樹の生育や収量、果実品質の調査を実施した。

(1) 果実収量・樹冠拡大

初結実は4年生樹であったが、5年生樹でも着花がやや少なく樹による着果数にバラツキがあり、一樹当たり収量も少なかった。

6年生樹では着果が安定し、着果数の多い樹で一樹当たり約20～25kgの収量が得られ、10a当たり収量に換算すると約1.6tであった。

一方、樹冠の拡大は、「ゆら早生」より良好であった（写真2）。



写真2. 6年生樹の樹姿

(2) 果実肥大・品質

平成29年度の果実横径は昨年より小さく推移したが、収穫期の果実階級では昨年同様M級主体であった。

また、収穫期の糖度は、昨年より1.5度以上高く、10度を超えた。一方、減酸は遅れ、1%近くに達したのは9月末であった（図1）。

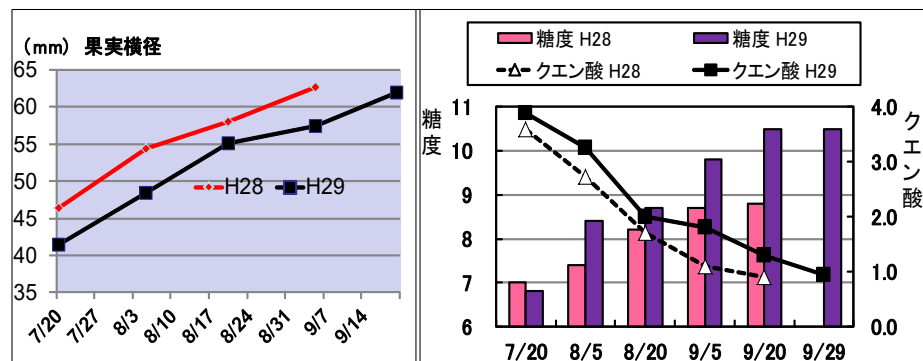


図1. 果実肥大及び品質の推移

注) 果試調査樹（マルチ被覆無し、H28;5年生・H29;6年生）

(3) マルチ栽培の取り組み

6年生樹の本年度は、ある程度まとまった着果が確認できたため、果実品質の向上及び着色促進を図るため、マルチ栽培に取り組んだ。収穫約2ヶ月前の7月18日に透湿性シートを被覆して9月29日に収穫を行った(写真3)。被覆期間中、減酸促進のため9月6日から7日にかけて10a当たり20mmの点滴かん水を行った。



写真3. 収穫時の着果果実

	果実階級	糖度	酸度	着色程度
マルチ樹	S級果主体	11.6	1.13	2~3分
慣行樹	M級果主体	10.5	0.95	1~2分

収穫時の果実階級及び品質は表1の通りである。マルチ樹では慣行樹に比べ、果実階級はやや小ぶりのS級果が主体となった。また、果実品質は、平均糖度11.6、平均酸度1.13、着色程度は2~3分となり、糖度及び着色程度で慣行樹の品質を上回った。

収穫果実全体(約1t)の品質評価では、約60%がブランド果実(紀のゆらら:糖度10以上)の品質基準を満たし、マルチ栽培による高品質生産の実証につながった。

また、JA紀南の「YN26」販売単価も300円/kg以上で、9月中に販売される品種の中では最も高単価となり市場評価が高かった。

4. 現地研修会等の開催

実証園の収穫期(9月中旬)には、生産者を対象にした果実の試食会や現地研修会(JA紀南と共同開催、協力:県果樹試験場)を開催した。指導員の技術習得に向けては、果樹試験場の研究員を招き、摘果や剪定講習会を開催した。

また、JAの生産部会等でも実証園における果実品質調査結果や生育状況を報告し、低品質の極早生種からの転換を進めるうえで有望品種であることを啓発した。



写真4. 摘果講習会の様子

5. 今後の推進方向

現在、これまでの栽培実証等により得られた栽培のポイントを記述した現地向けの栽培マニュアルを作成中である。

今後とも実証園を活用して高品質果実の安定生産実証に努めるとともに、栽培マニュアルを活用した技術指導により、面積の拡大及び品質向上を目指していく。

なお、西牟婁管内の平成28年度までの「YN26」苗木導入本数は約9,700本で、面積換算で約9.7haに拡大している。

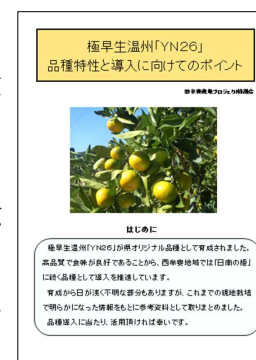


写真5. 作成中の栽培マニュアル